



第9号
2013.12.15

発行
長野県松本美須々ヶ丘高等学校同窓会
〒390-8602
長野県松本市美須々 2-1
長野県松本美須々ヶ丘高等学校内
TEL・FAX (0263) 33-2560 (事務局直線)
ホームページ
<http://www.mcccl.or.jp/www/misuzu100/>
メールアドレス
misuzugaoka@po.mcccl.or.jp

印刷 SALAT (株) サラト

私たちの同窓生
会員数 33,650人
在校生 916人
(男427、女489)
平成25年4月現在

前身学校
長野県市立松本女子職業学校
長野県松本高等家政女学校
長野県松本市立高等女学校
長野県松本市立中学校
長野県松本市立女子商業学校
長野県松本市立高等学校



同窓会会長 中村 一郎 (S37卒)

活気に満ちた 同窓会を目指そう

同窓生の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、同窓会発展のために格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。心より厚くお礼申し上げます。

さて、昨年の総会において福島昭子前会長より引き継いだ同窓会長という大任を、副会長さんたちのご協力のもと運営してまいりました。そんな中、事務局長を兼任されていた副会長の荻原幹雄氏が、体調不良により三月をもって退任されました。後任には、母校のPTA会長・役員を歴任された瀨川久幸氏が就任することを、総会で満場一致でお認めいただきました。

在校生の部活動では、特筆する事項

としては、陸上競技・走高跳種目でインターハイ大会に出場して、好成績を取っています。

放送部は、NHK杯全国高等学校放送コンテストに出場。また、八月に長崎県で開催された全国高等学校総合文化祭では、ビデオメッセージ部門『藍』で優秀賞を受賞するという快挙を成し遂げております。新聞部は全国の高校生たちと新聞づくりを通じて交流し見聞を広めました。

秋の新人大会では、弓道部が十二月に大阪で開催される全国選抜大会出場が決まり、練習にはいつそうの熱が込められています。

同窓会からは、頑張る在校生たちの更なる活躍を期待し、横断幕や激励板を寄贈し、学校近辺に掲示し、おおいにアピールしました。

六十六回目を迎えた双蝶祭では恒例の豚汁サービスに、四百食用意しましたが、一時間足らずで完食と大盛況でした。

九月に行われた学校整備共同作業では、PTA、同窓会、職員、生徒会の有志が大勢参加して、三階教室の壁塗りに汗を流しました。きれいになった教室で、勉強に励んでくれることでしょう。

また、昨年の同窓会総会において上

映した映画「アンダンテ」の旋律」を瑞々しい感性を持った在校生たちには是非観てもらいたい、ということ。十月二十五日にキッセイ文化ホールでの全校鑑賞会を催しました。

これからも学校と連携しながら、同窓生と在校生の絆を深めていけるような様々な提案・活動をしていきたいと思っております。

そして、同窓会及び母校の発展のために、寺沢校長先生はじめ諸先生方および同窓会副会長をはじめとする全役員の方々ならびに同窓生の皆様方のご協力、ご支援をお願い申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



校長 寺沢 宏 芳

地域に開かれ 信頼される学校づくり

同窓生の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のことと存じます。また、日頃より母校発展のため、物心両面から多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

四月より百有余年の歴史と伝統を誇る本校に勤務することになり、大変光栄であるとともに身が引き締まる思いであります。校長室の窓から前庭の美須々の森を眺めていますと、大木と

に、世紀を超え年輪を重ね大樹となつた本校が重なります。微力ではありますが、本校発展のため全力を尽くす決意しております。どうかよろしくお願ひします。

新入生三二一名を迎え本年度がスタートし半年、生徒の多くは学習やクラブ活動に熱心に取り組む、充実した学校生活を送っています。心配なことは自転車の交通マナーです。本校の地

理的位置もあつてか、四月以降自転車事故が続発するとともに、近隣住民から自転車マナーへの苦情が後を絶ちません。幸い重篤な事故には至っていませんが、一歩間違えばと思わせる事故もあり、生徒の意識改革を通じたマナー向上と、歩道の整備・拡幅といった抜本的な対策の必要性を感じています。

さて、全国では、昨年来教育現場での「いじめ」や「体罰」が社会の耳目を集め、県下にあつては教員の不祥事続発が、教育や教員に対する不信感を煽っています。社会が大きく変容している現代社会にあつて、学校だけが超然としていられるはずがありません。社会のグローバル化や情報化、少子高齢化の進展は、学校の抱える課題を多

様化・複雑化させています。こうした状況が生徒・教員のストレスを増大させ、今回の教育現場での混乱の背景になったと言われています。学校は、生徒の健全な成長と自己実現を目指し学習活動を行う場ですから、その基盤としてまず安全で安心な学びの環境が確保されなければなりません。

幸い本校には深刻な「いじめ」、教育委員会から「体罰」と認定されるような事例、教員の「不祥事」はありませんでした。しかし、そうした事態には至りませんが、保護者の方には不信感を抱かせるような言動が教員にあつたとの指摘がありました。そこで今回の件に関して、本校の職員には私から次のように話しました。「教育に対する不信感には本校にも向けられているのであり、その信頼回復は本校のテーマで

もある。今こそ教員としての崇高な使命を自覚し、教員としての矜持を持つことで、コンプライアンス意識を高め、日々の教育に真摯に取り組まなくてはならない。ただし、今回の問題で必要以上に萎縮しないでほしい。これまで同様、生徒支援のため必要な指導は躊躇することなく自信を持って行つていただきたい。」

最後になりましたが、今の時代、地域の信頼なくして学校の存立は考えられません。今まで以上に地域との連携を深め、地域に開かれた学校にならなくてはならないと考えています。同窓生の皆様はもとより、地域の皆様方のお力もお借りして、「地域に開かれ信頼される学校づくり」を力強く推進します。母校発展のため、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



事務局長 竹松直彦

想い出の美須々ヶ丘に

四月から事務長として松本美須々ヶ丘高校にお世話になっていきます。

私は長野市生まれで長野市育ち。私が出た高校は、当時、木造で老朽化の著しいものでしたが、十数年前に建て替えられ、今は立派な校舎が建っています。歴史は美須々ヶ丘よりやや古く、百十五年ほどでしょうか。

八月某日、その卒業四十周年の同学年会というものが開催され、二十五周年以来という事で旧友との久々の再会を楽しみに出席してきました。

受付で渡された名札を下げてテーブルに。お互いに顔を見合わせ、おっかなびづくり名札をそっと覗きこみ、「おおッ、懐かしいな」との挨拶。

顔が分からないのも道理で、その多くは太り、その多くは禿げたり白髪頭で、当時の面影が色濃く残っている、保存状態がいい者はわずばかり。

それでも、卒業生の三分の一以上の百数十人の出席、齢八十を超える恩師三名の出席も得ての会は、懐かしい面々が会場が埋め尽くされていました。

久しく会っていない友の中には、たまたま母親の三回忌で米国から帰ってきていたという赤ひげ先生とは真逆の医者、当時のヌード撮影会のエピソードが秀逸だった歯学部教授、大人しくいじられキャラ

だった某金融機関の副頭取等々。昔の他愛のない話に花が咲き、二次会にも繰り出して、時の流れるのも忘れ、酒を酌み交わしてきました。勉強よりも、青春の一頁を飾る多感な高校生活を共に過ごした「悪友」たちとの悪事の数々には尽きないものがあり、一つひとつが、最良の酒の肴にもなり、往時に戻ったような感覚さえも。

長野を離れ活躍している者、第二の人生に一步を踏み出した者、第二の人生をまた長野で始めたいという者、人生千差万別。しかし、一堂に会せば昔からの友。

在校生の皆さんが、よき想い出として美須々ヶ丘高校時代を語れるように、また卒業生・同窓生の皆様が母校、この美須々ヶ丘高校を誇りに思っていただけよう、微力ではありますが、一緒に歴史を刻んでいきたいと思っています。



事務局長 瀬川久幸 (S55卒)

私と美須々

同窓生の皆さん、初めまして。三万人余もいる同窓生で私の事を知らない人の方が、断然多いですから先ずは自己紹介からさせていただきます。

私は昭和五十五年卒業で、部活は今は無き柔道部です。現在は五十二歳、山形村在住で、職業はスイカ、ゴボウ、シロネギ、ナガイモを栽培する専業農家です。家

族は妻と子供三人、妻の両親の七人です。他に十七歳の犬と親子三代の猫、池に鯉や金魚がいます。

私の両親はすでに他界しましたが、私は小さい頃、母は美須々出身だと思っていました。「美須々はいいよ。頑張って高校は美須々にいきなさいよ。」といつも言われて、いつの間にか自分も「高校は美須々」と目標にし、辛い？受験勉

強を乗り越え夢をかなえました。実は、母は中学卒業後松本の菓子屋で事務の仕事をしていました。今、思えば母はきつと美須々に通って学びたかった。その思いを私に託したのだと思います。

父は、野球が好きでした。五人兄弟の長男だったので高校進学はせずに、農業を継ぎました。村の早起き野球やナイターソフトボールを楽しみました。そんな父は弟に夢を託しました。私も大好きだった叔父はS三十四卒野球部でした。

そんな両親のおかげで私は、美須々での三年間を存分に楽しむ事ができました。そんな私に影響さ

れたのか、先ずは長女が入学する事ができました。私も二十四年ぶりに母校の門をくぐりました。待っていたのはPTA役員でした。

三年後、続いて長男が「美須々でサッカーがしたい」と入学。高校総体、選手権決勝戦まで勝ち進み、親も楽しませてくれました。そしてまた三年後、そんな姉、兄を見ていた次男も迷わず美須々に入学。そして今春無事卒業する事ができました。

その間、PTA役員をやらせていただき、大変勉強になりました。そして二度目の高校生活を楽しくさせていただきました。同窓会の皆

様には物心両面からお世話になり、またPTAでは手が回らない双蝶祭での豚汁提供など、力強く助けていただき感謝に堪えません。ありがとうございます。今回、同窓会の役員が足りないからと言われて、少しでも恩返しができると思っっています。しかし、何も知らない私です。皆様のお役には余り立てそうにありません。先輩の皆さんに教わりながら、ご迷惑をお掛けしないように務めさせていただきますので、よろしくお願います。そして、自分自身もまた美須々を楽しみたいと思っています。

活躍する卒業生

フロリアードからオリンピックピックへ

上 條 信太郎 (S44卒)



昨年、オランダのフェンローで開催された「フロリアード二〇一二」は花のオリンピックといわれる十年に一度の花の祭典です。この祭典では切花等のコンテストが行われ花の世界一を決めるのです。フェンローの広い会場は世界各国の花の展示ブースとコンテスト会場に分かれており、展示ブースでは各国の趣向を凝らした花の展示がされています。花のコンテストは四月から十月までの

春・夏・秋の三つの期間に分け、テーマや品目に基づいて二週間おきに審査会で審査



ら十月までの開催期間を

「フロリアード」に参加するからにはそれなりの結果を残したい。次に開催されるのは十年後。十年後も花作りをしているかどうかはわからない。結果を残すなら今しかない。長年取り組んできたトルコギキョウで賞を取りたい。スーパーローヌという子供の頭ほどの大きさになる大輪のラナンキュラスを世界の人達に見て欲しい。そう決めてはみたものの、丹精込めた花達をベストな状態でオランダまで送り届けるにはどうすればよいのか。圃場で花を切り出してからオランダに着くまでに五日かかり、審査が行われるのは更に二日後。切り花後



の一週間を、空輸される箱の中にいれられたままの状態からの審査は花達には厳しいものです。考えられる

かぎり考え、やれることは全てやり、最善と思われる方法で花を送り出してからの一週間はいつになく長い一週間でした。そして審査結果発表。春の球根部門でラナンキュラスが、夏の切花部門でトルコギキョウがそれぞれ一席となりました。



高校を卒業し大学で農学を学び現在に至るまで、ともかく素晴らしい切花を消費者に届けたいという想いで頑張ってきました。その中で多くの人の出合いがあり助けられてきました。乗り越え

ねばならない幾多の壁がありました。自分を信じて焦らずにしっかりと目標を定めて歩んできました。昨年のフロリアードでの受賞は長年の花き栽培の集大成でした。フロリアードは十年に一度しか開催されませんが、より広く花を知ってもらうために、二〇二〇年に東京で開催されるオリンピックに併せて、日本で花のオリンピックを同時に開催しようと動き始めたところ。夢はまだまだ広がります。



走れ！ひまわり号

鳥 羽 弘 純 (S45卒)



卒業して約四十三年。わお！歳くった。只今六十二歳の坊主です。松本市神田、自性院の住職をしております。先輩諸氏が大勢おられる中、おこがましいとは思いますが、まっ、今現在私が携わらせてもらっていることを書かせていただきます。と思います。

またから、車内の椅子を取っ払って、車窓から景色が見えるように工夫したベッドをいくつも作りました。トイレも障害を持つ皆さんには備え付けは無理なので簡易トイレを用意しました。

障害を持つ人も持たない人も一緒に旅しよう！楽しい旅を通して、知り合い、ふれあい、お互いを理解し、分かち合いながら、誰でもみんなが安心して、暮らしやすい・住みやすい街や地域を夢見て行こう！その夢の実現に向かって行動して行こう！という、正式名称「ひまわり号松本実行委員会」の活動です。

当日の朝にはプラットホームがはちきれんばかりの人だかり。「虹色のトレイン」というテーマソングが流れる中、電車が出発。舞鶴城では地元、甲府のボランティアの皆さんとの交流会。そして四班に分かれて別行動。ぶどう狩り・山梨県立美術館見学・フィールドアスレチック・市内ショッピングを楽しみました。

一九八五年の第一回目は当時国鉄の電車十二車両を貸切って八八〇名。それは楽しい「甲府舞鶴城への旅」でした。車椅子を利用される方はもちろん、寝たきりの方もいらっしやい

八百人を超えると、健常の方だけの旅でも、お土産買って、なんて、一人や二人、いや、何人も集合時間に遅れる方がいらっしやると思うんですが、これがまた一人も無く、また、体調を崩される方もいらっしやるのでは

と、医師や看護師の方も参加して下さったわけですが、何事もなく、全員無事で大成功の旅でした。

「来年どこに行きたいですか？」。答えは大勢の方が「海」でした。そうです。信州には海が無い。二回目は糸魚川へ海へ行きました。初めて見る海波、初めて見る海を見た」とおっしゃった。日頃寝たきり生活をなさっているおじさん。周りにいた仲間みんな涙を流していました。この活動は絶対必要なんだ！今は続けて行くべきだ！その時そこにいた仲間、それを聞いた仲間、みんながそう思いました。その光景があつてこそ、年に一度の旅を二十九年間続けてこれたんだと思います。今年も飯山市の「高橋まゆみ美術館」へ行ってきました。

今年こそ、障害を持つ皆さんの自立がほんの少しはし易くなつて来ているようですが、はたしてどうでしょう。まだまだ色々足りないことを、その立場になつて、一緒に考えたい。と思っています。

祝ひまわり号松本25周年！

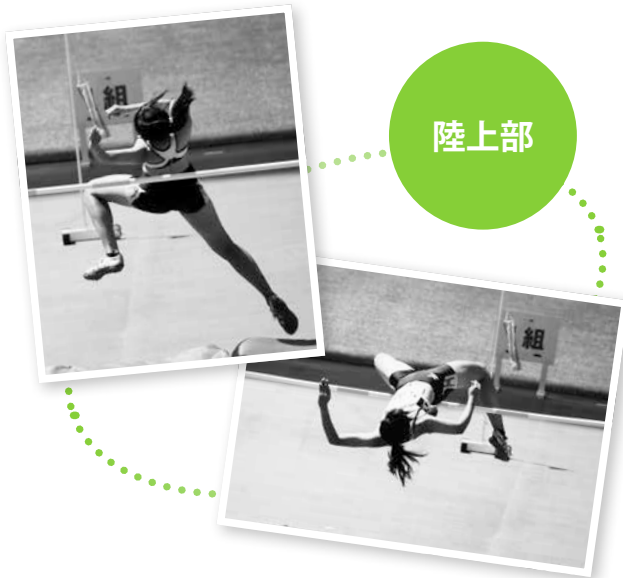


来年は三十周年。どんな周年事業を展開出来るのか、今からワクワクしております。どうぞご協力、お願い致します。

在校生 全国大会へ



運動部



陸上部

目標だったインターハイ出場

3年 中村 芽衣

私は、7月29日から8月3日まで大分県で行われたインターハイに、走り高跳びで出場しました。結果は、1m61cmで31位でした。

1年生の時から目標にしていたインターハイに3年生でやっと出場することができ、そこで自己ベスト記録を出せたことをとても嬉しく思っています。

私がこうして記録を出せたのは、今まで一緒に練習を頑張ってきた部員みんなの応援が大きいです。直前に一人一人のメッセージやビデオレターをくれたり、本当に力になりました。

私がインターハイに出場できたのは、大好きな陸上部のみんな、大好きな友達、大好きな先生、大好きな家族、応援してくれた方々のおかげです。

たくさんの応援、本当に嬉しかったです。本当にありがとうございました。

そしてミスズ陸上部は急成長しています。これからも応援よろしくお願いします。

文化部

放送部

『2013長崎しおかぜ総文祭』放送部門 ビデオメッセージ部門『藍』 優秀賞受賞



NHK杯全国高校放送コンテスト



○制作意図及び受賞しての感想

長野県松本市で創業102年を迎えた、藍染 浜染工房の職人、浜完治さん取材しました。浜さんは18歳の時、お父さんから藍染の道に進むことを命じられます。

しかし、浜さんを待ち受けていたのは、15年にも及ぶ糊置の修行、そして早いお父さんの死。様々な困難を乗り越え、浜さんは諦めず努力し続けます。浜さんは「努力は必ず報われる。だから若い時に努力してほしい。」と話してくれました。

今の若者は、すぐに諦めたり、簡単な道を選んでしまう人が多いと耳にします。

そんな若者達に私達は、「努力をすれば得られるものがある」ということを伝えたくて、この番組を制作しました。

藍を愛する浜さんの表情と魅力的な藍の色でメッセージを届けたいという想いを込めました。

実は、結果は帰りの電車で聞いたのです！

受賞が決まったときは現実味がありませんでしたが、見て下さった皆さんに、私達の伝えたいメッセージが届いたことを改めて実感することが出来ました。

新聞委員会

全国高等学校総合文化祭に出場して

2年 百瀬 麻理菜

7月31日から8月2日に長崎県で行われた全国高等学校総合文化祭・新聞部門に出場してきました。

他県の人たちと班を組み、取材をして新聞を作成しました。

他の高校生が発行している新聞や心がけていることなど、たくさんを知ることが出来ました。

この研修で学んだことを今後の新聞委員会の活動に生かしていきたいです。



平成24年度・25年度 クラブ活動の主な大会報告

学芸クラブ

映画研究・FMC・演劇・合唱・華道・茶道・写真・情報処理・書道・新聞・吹奏楽・生物・ダンス・美術・被服・放送・漫画

24年度

FMC	県高校軽音楽クラブ合同演奏会
合唱	NHK合唱コンクール銀賞受賞
写真	県高校写真展出演
吹奏楽	吹奏楽コンクール県大会金賞 東海吹奏楽コンクール銀賞 アンサンブルコンテスト県大会(クラリネット5重奏銀賞)
放送	NHK杯全国高校放送コンテスト全国大会(アナウンス部門出場) SBC高校生交通安全CMコンテスト(テレビ部門・クリエイティブ賞)(ラジオ部門・グランプリ) SBC杯放送新人コンテスト(ビデオメッセージ部門・朗読部門県代表)
書道	県書道展覧会(金2・銀3・銅3・入選8) 全国書道展(特2・金4・銀4) 全日本書道コンクール(優秀1・優良1・佳作2・入選4)
美術	県高校美術展出演
ダンス	県高校総合文化祭出場
新聞	県高校総合文化祭出場

25年度

(11月15日現在)

FMC	県高校軽音楽クラブ合同演奏会
演劇	高校演劇発表会県大会出場
合唱	NHK合唱コンクール銀賞受賞
写真	県高校写真展(選考展示)
書道	県高校書道展覧会
新聞	全国高校総合文化祭出場
吹奏楽	吹奏楽コンクール県大会・中部日本吹奏楽コンクール県大会・第38回定期演奏会
ダンス	県高等学校総文祭ダンスフェスティバル
美術	松本学生美術展出品
放送	NHK杯全国高校放送コンテスト(ラジオドキュメント・朗読部門全国大会)・全国高校総合文化祭(ビデオメッセージ・朗読部門)

運動クラブ

弓道(男女)・剣道・サッカー・水泳(男女)・野球・陸上(男女)・ソフトテニス(男女)・ソフトボール・卓球(男女)・バドミントン(男女)・テニス(男女)・バスケットボール(男女)・ハンドボール(男女)・バレーボール(男女)・フットサル

24年度

《県高校総合体育大会》

弓道	男女団体 男子個人 女子個人
剣道	男女団体 男子個人
サッカー	
水泳	男子100平・200平 女子100平・200平 100自
ソフトテニス	女子団体
ソフトボール	
バスケットボール	男子
バドミントン	女子団体
バレーボール	男女

ハンドボール	男女
野球	全国高校野球選手権
陸上	やり投げ・400m・走幅跳・走高跳・400R

《北信越高校体育大会》

弓道	男子団体 男子個人 女子団体
水泳	女子100平・200平
陸上	女子 走高跳

《インターハイ》

弓道	男子団体
《県高校新人体育大会》	卓球・陸上・弓道・剣道・水泳・バレーボール・ソフトテニス・バスケットボール・ハンドボール・ソフトボール

25年度

(11月15日現在)

《県高校総合体育大会》

弓道	男子団体3位 女子団体 女子個人
剣道	男女団体
サッカー	2回戦
水泳	男子 100m自・100m平・200m平 200m個・400mR 女子 50m自・100m自・100m平(7位北信越)・200m平(4位北信越)
ソフトテニス	男女団体
ソフトボール	2回戦
卓球	女子団体 個人
バスケットボール	男子
バレーボール	男子
ハンドボール	男女
野球	全国高校野球選手権
陸上	男子 3000sc・5000競歩・走高跳・三段跳 ハンマー投げ・やり投げ・4×100mR 女子 100m・200m・800m・走高跳 走幅跳・やり投げ

《北信越高校体育大会》

弓道	男子団体
水泳	女子 100m平・200m平
陸上	走高跳・走幅跳・やり投

《インターハイ》

陸上	走高跳
《県高校新人体育大会》	陸上
弓道	男子団体1、2位 女子団体2位
サッカー	準々決勝
ハンドボール	男女
ソフトテニス	男女
卓球	
水泳	

《東海陸上大会》

陸上	男子 ハンマー投
《北信越高校新人大会》	弓道 女子団体・個人

《全国高校弓道選抜大会》

弓道	女子団体・個人
----	---------

平成25年度
長野県松本美須々ヶ丘高等学校同窓会定期総会

平成25年6月15日(土)
会場：ホテルモンターニュ松本
受付 14:15～15:00
定期総会 15:00～16:00
コンサート 16:00～16:45
懇親会 17:00～19:00

《会議次第》

- 1 開会のことば
- 2 同窓会長あいさつ
- 3 学校長あいさつ
- 4 来賓あいさつ 顧問 県議会議員 中川博司氏 (S.52年卒)
 斐 裕一氏 (H.元年卒)
- 5 議長選出・議長就任あいさつ
 当番幹事学年 山口尚徳氏 (S.51年卒)
- 6 議事録署名人の委嘱 (幹事学年より)
- 7 議 事
 第1号議案 役員の選任について
 第2号議案 平成24年度事業報告について

- 第3号議案 平成24年度決算報告及び会計監査報告について
- 第4号議案 平成25年度事業計画(案)について
- 第5号議案 平成25年度予算(案)について
- 8 議長退任あいさつ
- 9 感謝状の贈呈 前同窓会会長 福島昭子氏へ
- 10 連絡事項
 (1)学校の近況報告
 (2)会報の発行について
 (3)本校創立100周年記念誌の販売について
 (4)その他
- 11 閉会のことば

《「CLOVER」コンサート》
平成8年卒の田中 綾さんと
そのお仲間による
マリンバ&パーカッションの
演奏会

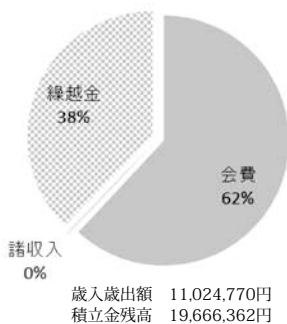


提出議案につきましては、
すべて原案のとおり承認されました。

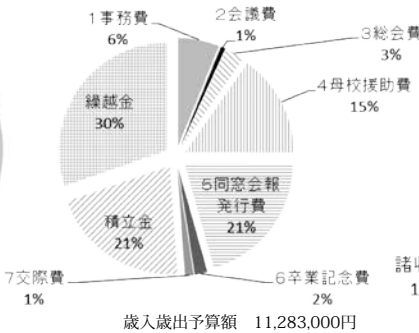
今年度の定期総会・コンサート・懇親会に出席された方は63名でした。

平成25年度の当番幹事のS51年卒、S61年卒のみなさまありがとうございました。
来年度(平成26年度)の当番幹事のS52年卒、S62年卒のみなさま、よろしく申し上げます。

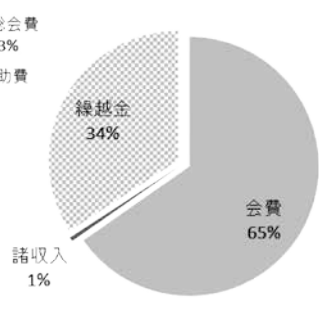
平成24年度決算(歳入)



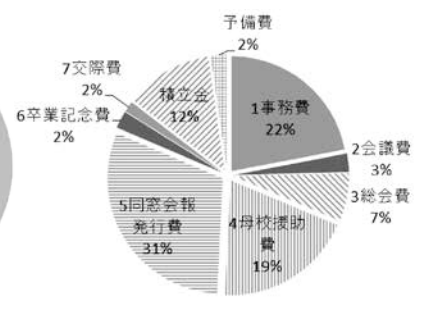
平成24年度決算(歳出)



平成25年度予算(歳入)



平成25年度予算(歳出)



～ 平成25年度 同窓会役員名簿 ～

役職	氏名	卒業年
顧問	銭坂明尚	昭和22
"	井口善高	昭和30
"	福島昭子	昭和26
顧問	寺沢宏芳	校長
参与	中川博司	昭和52
"	斐 裕一	平成元

副会長	山田洋一	教頭
常任理事	大林好矩	昭和28
"	山田悦生	昭和42
監事	鳥羽紀子	昭和38
"	小野伸二	昭和61
会計	原元士	昭和50
"	竹松直彦	事務長
理事	原みよ子	昭和22
"	太田公孝	昭和38
"	三澤博	昭和39
"	三輪尚弘	昭和41
"	伊藤篤實	昭和43
"	上條信太郎	昭和44
"	川崎亨	昭和45
"	中村俊春	昭和46

理事	松本武子	昭和47
"	高橋隆夫	昭和54
"	木下尚子	昭和55
"	中村努	昭和56
"	鳥羽洋一	昭和57
事務局	住田慶子	昭和37
"	鳥羽美根子	昭和37
"	横田麗子	昭和43
"	滝沢愛子	
学校職員	高橋一郎	昭和58
"	稲場隆	昭和59
"	祖父江信一	昭和59
"	齋藤俊樹	平成2
"	白木貴仁	平成7

役員	氏名	卒業年
会長	中村一郎	昭和37
副会長(会長代行)	小林磨史	昭和48
副会長	百瀬富貴子	昭和45
"	白井秀代	昭和47
"	瀬川久幸	昭和55
"	瀧澤修	平成2

映画「アンダンテ」

★生徒感想文★



機械のような厳密さと効率性が求められる今日の日本社会。「アンダンテ」稲の旋律は、そんな社会の問題と農業をテーマにした作品だ。主人公の千華は、対人恐怖症で一日中暗い部屋の中に閉じこもっている女性。そんな千華が横芝光町の農家である晋平との文通や農作業を通じて、少しずつ自分らしい生き方を取り戻していくストーリーだ。この映画の見所は、千華のひきこもりからの成長を、田んぼの稲の成長に重ね合わせて描いていることだと私は考える。最初は人と会うだけでひどく緊張したり、ゴミだらけの部屋の中で過ごす千華が、横芝光町の人との交流を通して、母からの過度な期待から弾かなくなったピアノに再び触れたり、部屋をきれいにしたり、と成長する千華と呼応するよう田んぼの稲もガタガタの田植え状態からまっすぐと伸びていき、映画のラストシーンでは豊かに実っているところが、自然をテーマにしているこの作品にとっても映えていると思っ

た。作品のタイトルにつけられている「アンダンテ」。これは音楽用語で、「歩く速さ」という意味である。効率が求められる中で、主人公の千華のように立ち止まってしまう人も多くいるであろう現代社会で、この映画は、「急ぎすぎなくていい、ゆっくりでも前に進んで行く」というメッセージを発信しているように思えた。「こう生きなければならぬ」という強迫的な観念から、農家と農家の人々を通して「ありのままがいい」というように考え方が変えられた。また映画の途中に何度も登場する波のように風に流れる稲穂の景色にも感動した。素晴らしい映画と会場準備をしてくださった同窓会の皆さん、ありがとうございました。(H. H.)

僕は「アンダンテ」を見て人と人との繋がりの大切さを改めて実感できました。主人公のような人が身近にいるわけではないけれど、社会には心深い傷があり、他人とうまくかかわることが出来ない人がいるということを知っていました。そういった人を主に役にした映画だと聞いた時から、色々なことを知る機会にしようと思っていました。

千華が送った SOS を受け取った農家の晋平が、知らない人であるその人を救ってあげよう、と必死に考えている姿は、そこまで必死になって考えなければ人の心を救うことが出来ないというのと同時に感じました。映画の中で最もいいな、と思ったシーンは、千華が初めて晋平の家を訪ねてご飯を食べたシーンでした。千華が不安な顔をしているにも関わらず、明るい笑顔で全く相手を探ることもなく心を完全に開いた状態で接していた晋平の家族。こういった人たちがだから千華も心を開くことが出来たのだな、と感じました。初対面の人に対しては距離を取り、相手を探ることが当たり前になっている社会で、初めから心を開きそれを態度や表情に出すのはなかなか出来ることではないけれど、現代社会でもとても大切なことではないかと思いました。「アンダンテ」を見て、僕はこれから生きていく中で、人間関係は探り合ったりするものではなく、自分の心を開いていくことが大切なのだということを教えてもらいました。(S. Y.)

私がこの映画を見て感じたことは、家族の大切さや人との繋がります。主人公の千華の家族は、父親が絶対的であり、母親が従っているといった家族でした。父親は自分の考え通りにならない千華を良く思っていないし、母親は自分が出来なかったことを千華に押し付けるばかりで、ふたりとも千華のことをちゃんと考えてあげることが出来ていなくて序盤の千華の状態になるのも無理はないな、と思いました。親は、子どもを自分の思いどおりにするのはなく、本人の望む

ようにさせたいという支えてあげるところが大事である、と思いました。そして、今そうしてくれている自分の親に感謝しなければ、と改めて考えさせられました。次に、人との繋がりについてですが、千華は何もかもが嫌になつて目的もなく乗った電車に着いたところで素晴らしい出会いをしました。誰か拾うかわからないペットボトルに入れた SOS の手紙、それを拾い返事をくれた晋平によって、千華はいろいろな人に出会い、変わっていきました。拾ってくれたのが晋平でなかったら、きっと千華はあの状態のままだったでしょう。私はこの映画から、人との繋がりの奇跡みたいなものを感じました。そして同時に今周りにいる人たちがこうして出会えて、同じ時を過ごしているのも奇跡なのだ、と改めて思いました。この映画は私に家族や友達など、いま周りにいる人たちとの繋がりの大切さを考えさせてくれました。これを機会に人との繋がりの大切さを考え直し、これからの人生、人を大切に出来る人間になつていきたいです。(A. Y.)

映画鑑賞会で「アンダンテ」を見るにあたって、最初は正直つまらなそうに映画だと思っていました。きつと睡眠時間になるだろうという考えでした。しかし実際映画が始まってみると一睡もせず最後まで鑑賞することが出来ました。知らないうちに映画にのめりこんでいました。「アンダンテ」は社会に対応できない対人恐怖症の主人公が横芝光町の農家に助けを求め新たな自立の道を懸命に模索するという内容でした。そしてこの映画の中でいくつかの問題を取り上げてい

る、と考えました。まずひとつめは、主人公の対人恐怖症と引きこもりについてです。現在の日本では、登校拒否やひきこもりなどは、深刻な問題となっています。登校拒否やひきこもりは、学力低下につながり、仕事に就けず俗にいうニートになります。そしてふたつめの問題は農家の経営が厳しいという点です。現在の日本は食糧自給率が低く、食料を外国からの輸入に頼りすぎていくというのが現状です。化学農産物をほとんど使わない安全な日本の農産物をなぜ使わないのかという疑問が浮かび上がります。この二つの問題を解決するためのヒントを「アンダンテ」は教えてくれたような気がします。まずひとつめは、主人公のように誰かに相談することが大切だと感じました。自分一人で悩まないで勇気をもって打ち明けることで自分に自信が持てるのだと思います。ふたつめは、価格が、安全性かの消費者の考え次第です。安い外国産に負けず安全な作物を作り続けていれば、消費者は、安全な食材を選ぶと思います。このように「アンダンテ」は現在の日本の問題を捉え考えさせる映画でした。鑑賞が出来てよかったと思います。(T. K.)

生徒からは多くの感想文が寄せられました。紙面の都合上、その一部しか紹介できませんでしたが、主人公の気持ちに寄り添いつつ、今の自分を見つめ、将来に向けて示唆を受け、「この映画から多くの感動をもらい、学びました。有難うございました。」と多数の感謝の言葉が届きました。



シリーズ 美須々のころ③ 松本市立中学校の歌

松本美須々ヶ丘高校100年の歩みを綴った記念誌『美須々のころ』の中から次代へ受け継いでいきたい美須々精神や学校の歴史など、特筆すべき記事をシリーズで紹介します。

昭和二一（一九四六）年、松本市立中学校の有志は「歌集」を発刊、青春の歌声をあげた。応援歌として今も歌いつがれている「市中健児・天守の下」「大旗の下」などこの当時に作られたものを載せている。発刊に際して学校長長田中長男は次のようにしている。

芸術の始源は「唱う」ことにあると謂ふ
唱はん哉人生 ともある
品良く 香り高い 明朗な歌を 一緒に唱はうぢやないか
為に人生は明るい

明るさ そこから人生の雄々しさも湧くというものも
勇敢に歌いつ、正しい人生を共に歩まう
古い歌も新しいのも 皆佳吟快調
とつてもつて共に歌はう 愉快に

歌は世につれ学校生活と共に在った。
松本市立中学校と松本市立女子商業学校は創設後日も
浅く校歌というものを持つに至らずに、市立中学校
では校歌に代わるものとして「校友歌（池田空華作詞、
岩原幸子作曲）」を歌っていた。

一、空に聳ゆるアルプスの 三、美須々ヶ丘の広庭に
雪の山々仰ぎつつ 鍛える身体逞しく
性を養う学舎に 文化の栄を継がんとて
知性の光澄み徹る 漲る力創り成す
いよいよ高し我が理想 いよいよ強しわが生命

二、人情愛は動く源の
その名やさしき女鳥羽川
自然の恩寵あたたかく
この高原にいつくしむ
いよいよ深し我が至情

抑圧と戦争の時代が去って、到来した新しい時代の
息吹が感じられる歌である。
三校が合併して松本市立高等学校が発足した時、女
子職業学校の校歌が引き継がれなかったのは、女子生
徒を対象とした歌詞の内容から止むを得ないことであ
った。

また市立高等学校は校舎の火災や移転といった苦難
の時代の中にあり校歌の制定にまでは至らなかった。

進学合格状況 (平成24年度末 延べ人数 浪人含む)

【国公立大学】17名			
信州大学	7	高知大学	1
茨城大学	1	神戸大学	1
首都大学東京	1	高崎経済大学	3
		福井県立大学	1
		秋田県立大学	1
		福井県立大学	1
【私立大学】321名 (一部抜粋)			
愛知大学	3	近畿大学	1
愛知学院大学	3	健康科学大学	2
愛知淑徳大学	2	国際医療福祉大学	2
亜細亜大学	3	国土館大学	4
大妻女子大学	4	駒澤大学	6
学習院女子大学	1	佐久大学	1
神奈川大学	13	芝浦工業大学	3
神奈川工科大学	4	諏訪東京理科大学	2
金沢工業大学	3	清泉女学院大学	3
関西大学	2	専修大学	14
関西外国語大学	2	大東文化大学	8
関西学院大学	1	拓殖大学	6
神田外語大学	2	玉川大学	1
関東学院大学	7	中央大学	3
北里大学	2	中京大学	7
京都産業大学	2	帝京大学	11
京都橘大学	3	東海大学	6
		龍谷大学	1
【公立短期大学】3名			
長野県短大	2	三重短大	1
【私立短期大学】47名			
松本短大	7	松本大学松商短大部	5
清泉女学院短大	7	長野女子短大	3
飯田女子短大	3	信州豊南短大	1
		青山学院女子短大	1
		大妻女子大学短大部	1
		上智大学短大部	1
【専門各種学校】59名			
看護医療系	26	その他分野	33



本校創立100周年記念事業に多大なご尽力をいただいた前同窓会会長福島昭子氏に寺沢校長より感謝状を贈呈しました。

事務局だより

本校創立100周年記念誌を好評発売中

・1冊5,000円

ご購入希望の方事務局までご連絡下さい。

教育会館(同窓会館)をご利用下さい。

〈同級会の前に見学して、懇親会へ〉
ご利用希望の方はご連絡下さい。
事務局は毎週火曜日開館しています。
10時～15時

TEL・FAX 0263(33)2560

編集後記

九号の発行が予定より遅れてしまい、お手元に届くのは師走の慌ただしい時期ですが、ご一読いただければ幸いです。

▲上條さんは、十年に一度オランダで開催される「フロリアード」に、丹精して育てたトルコギキョウを出品し賞を取る、という目標を掲げ、いかにベストの状態と審査に臨むかという、花への愛情と緊迫感にあふれた出品の様子を紹介していただきました。次の目標の二〇二〇年のスポーツと花のオリンピックが楽しみです。

▼鳥羽さんが二十九年間続けている「障害のある人もない人も、一緒に旅をする世界への会」の活動。日常を離れ広い世界に触れた時の喜びや開放感、誰しも同じでしょう。助けを必要とする人にとつと寄り添う「共に生きる」美須々のころ」を実践され続けています。

▼「活躍する卒業生」のコーナーでは、もつと大勢の方々のお話を紹介したいと思っております。紙面は限られますが、自薦、他薦を問わず、ご紹介いただきたいと思います。

▼毎年少しずつですが、総会、会報を中心に同窓会を充実させていきたいと考えております。同窓会の行事へのご参加、年会費の納入などいっそうのご協力をお願いいたします。

(事務局)